

やまぐち

桜の森

2012.10 第10号

通信

山口県立大学広報誌



公立大学法人
山口県立大学
Yamaguchi Prefectural University



[特集Ⅰ]

山口“けんじつ”大学。

この半年の出来事

[特集Ⅱ]

別科助産専攻

研究室紹介

講義紹介

相談の森

学生紹介

サークル紹介

国際交流



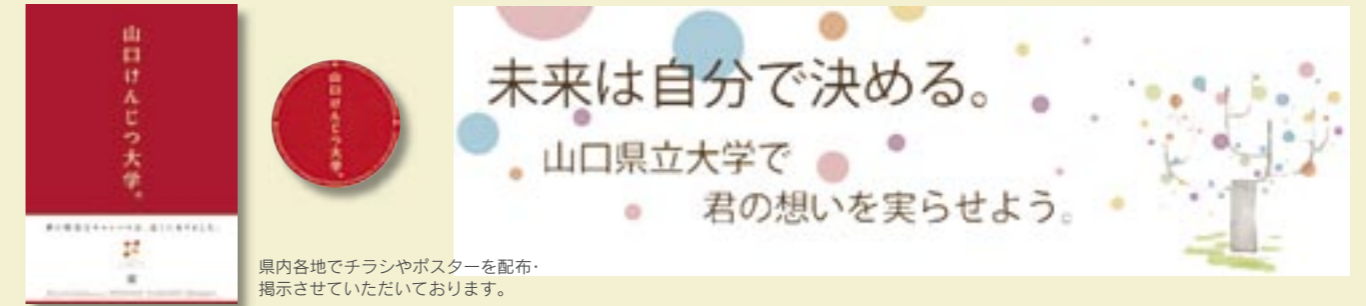
山口“けんじつ”大学。～夢に堅実なキャンパスは、近くにありました～

大学には、高い専門知識や技能を身に付け、将来、社会で活躍したいと願う多くの学生が入学し、その実現に向かって、日々努力を重ねています。

山口県立大学は、地域貢献型大学として、「人間性の尊重」「生活者の視点の重視」「地域社会との共生」「国際化への対応」の理念の下、地域社会に貢献するマインドを育む教育を進めています。また、学生の皆さんを社会で活躍できる人材として育成することで、夢を実現できるよう積極的に支援を行っています。

本年度は、こうした思いや努力が実績につながっていることを、皆様にご案内いただき、「山口けんじつ大学。～夢に堅実なキャンパスは、近くにありました～」をキャッチコピーとして、各種のPR活動を展開しています。

今回は、山口“県立”大学の“けんじつ”の中身を一部取り上げ紹介します。



県内各地でチラシやポスターを配布・掲示させていただいております。

本学の特徴を活かした確かな教育・学生支援

醸成する体験型教育

地域との連携・多世代交流

地域の方々身近な健康や文化の領域で、人と人との関わりを重視した教育を行っています。



グローバル学生交流

国際交流

グローバル化に対応できるよう、海外姉妹校の学生との3週間にわたる定期的交流などを行っています。



地域共生演習「もりさま祭り」女みこし神幸の復活



Baby Café(子育て支援プログラム)

学生スタッフ制度

大学の公的活動等にスタッフとして参画することで、総合的人間関係力・社会力の向上を促す制度です。



放置自転車の整理学生スタッフ



ふちボラYP勇気～災害ボランティア啓発活動～

YPUドリームアドベンチャープロジェクト

学生が自主的に企画・運営する創造的プロジェクトを支援することで、大学生生活を豊かにし、企画実践力を養う制度です。



県立大学と地域をつなぐ“着物喫茶”企画(宮野駅にて)

チューター制度

学生10人につき1名の教員を、学生指導担当として配置し、様々な相談に応じています。

参考)教員一人あたりの学生数12.9人(全国大学平均16.4人)



学年進行に応じた就職ガイダンス

免許資格取得支援

国家試験に係る模擬試験や、補講・学生グループの勉強会支援など、免許資格の取得を年間を通じて応援しています。



面接対策講座(個別・集団など)

充実したキャリアサポート

1年次から、学年進行に応じた各種講座や丁寧な個別相談などにより将来の進路選択をきめ細かくサポートしています。

創造的活動の支援

学習指導・進路指導等

専門的能力、人間力、社会力の確実な修得

高い国家試験合格率

	社会福祉士	精神保健福祉士	保健師	看護師	助産師	管理栄養士
本学(新卒)	55.9%	77.8%	98.4%	100%	100%	100%
全国(既卒を含む)	26.3%	62.6%	86.0%	90.1%	95.0%	49.3%

活発なボランティアなどの自主活動



Kid's English (英語教員になりたい学生や、子どもと英語が大好き!という学生たちの実践的活動グループ)



未来を笑顔にプロジェクト(赤い羽根共同募金寄付つき商品企画等)(社会福祉学部)



防府市主催の防災訓練で看護学科有志が健康チェックコーナーを担当しました。



「なつやすみの宿題楽しく学ぼう会」学生たちが先生となって、小学生の宿題をサポートします。



なよし農業小学校(自然や農業の体験をとおして、子供たちに生きる力を育ててもらおう体験型の学校)のボランティアスタッフ



小学生対象の食育活動「食育戦隊ゴハンジャー」(栄養学科)

社会力ある人材として着実に学生が巣立っています

高い就職率

95.7%
就職者/就職希望者
87.1%(全国63.9%)
就職者/卒業者

平成24年5月1日現在

就職率ランキング

理系	文系
中国四国地区 看護栄養学部 第1位	中国四国地区 社会福祉学部 第2位
全国 看護栄養学部 第2位	全国 社会福祉学部 第10位

『週刊東洋経済』(2011.10.22発行)「ニッポンの大学トップ100・本当に強い大学2011」特集より

参考)退学率

「11年3月までの退学・除籍者÷07年4月入学者」=2.4% / 「11年3月までの退学・除籍者÷10年4月入学者」=0.0%

『大学の実力2012』(読売新聞教育取材班)掲載データより



▶▶▶ YPU New Wave

この半年の出来事

今年4月から9月までの主な出来事について、報道発表(ニュースリリース)したものを中心に紹介します。



4/2 ○平成24年度入学式

桜の満開を間近にひかえた青空の下、学部生347名、大学院生15名、別科生10名、計372名の入学式を挙行了しました。



新入生代表による入学生宣誓(国際文化学部国際文化学科 小田桃花さん)

5/15 ○山口県立大学開学記念行事

開学71年を記念し、本学の開学を祝うとともに、厳しい就職環境を踏まえ、NHKの協力の下、「仕事ハッケン伝 in 山口県立大学」を中心に開催しました。感謝状贈呈や職員表彰、学生表彰も行いました。



トークショー(仕事ハッケン伝)の1コマ

5/16~20

○韓国・慶南大学校と本学の学園祭交流

本学と韓国・慶南大学校とは、1996年に締結した学術交流協定による交流だけでなく、学生間の自主交流も毎年行われています。

今年は、本学のフットサルサークル「embellir」が、慶南大学校の学園祭「汗馬大同祭」に招待され、歌やダンス、書道パフォーマンスなどを披露しました。



ステージパフォーマンスの1コマ



情報交換会の様子

5/19

○桜園会(同窓会)との情報交換会

卒業生からの要望や意見等を積極的に取り入れたり、繋がりを強めることを目的として、桜園会(同窓会)との情報交換会を年2回程度開催することとしています。桜園会からは、全国各支部の代表者が出席し、本学からは学長、副学長、事務局長など5名が出席しました。



6/2

○山口県立大学学園祭「水無月祭」

学生による実行委員会主催の「水無月祭」が開催されました。伝統の騎馬戦や男装女装コンテスト、ダンス等のステージイベント、模擬店などで賑わいました。



ステージ発表(よさこい演舞)



目録贈呈式後の記念撮影

6/13

○山口県立大学学業成績優秀者奨学金目録贈呈式

「山口県立大学学業成績優秀者奨学金」とは、学部学生の教育の成果を評価し、学生の学習意欲を高めることを目的に、特に優秀な学生に対して、年間10万円の奨学金を給付する制度です。

今年度は、16名が選ばれ、学長から、一人ひとりに目録が贈呈されました。

6/25~7/16

○グローバル学生交流

今年も、本学と学術交流協定を締結している曲阜師範大学(中国)と慶南大学校(韓国)から学生を迎え、約3週間にわたって、学内外の様々な場所で、本学学生や地域住民の方々との交流を行いました。



日本文化体験(華道)



講演の1コマ

7/11

○山口からフィンランドのファッションデザイナーへの道-マリメッコから世界に向けて-
第4回山口国際文化学研究会特別プログラム「世界で活躍する本学の先輩に聞く」と題し、フィンランドのファッションブランド「マリメッコ」でデザイナーとして活躍している大田 舞さんをお招きし、講演会を行いました。

7/14~15・8/26

○オープンキャンパス・夏の終わりのオープンキャンパス

高校生やその保護者の方を対象に本学のキャンパスを開放し、入試制度の説明や学部・学科紹介、模擬授業、各種相談会などを実施しました。

今年は、初の試みとして、8月下旬にもオープンキャンパスを開催したところ、多くの方にご参加いただきました。



オープンキャンパス会場へ向かう高校生や保護者



「阿知須の防長三白+(プラス)展」(大学院生の作品展示)

7/25

○廻船のまち阿知須-山口流のまちづくりの交流・創造・発信-

大学院国際文化学研究会の「文化コーディネーター論」公開授業を第5回山口国際文化学研究会として開催しました。

かつて廻船業で栄えた阿知須を舞台に、山口県立大学大学院と【廻船のくまち・人・生き生き】プロジェクト 実行委員会との共同事業で実施したもので、シンポジウムや大学院生の研究成果発表の後に、地域の皆様と一緒に、まちづくりについて意見交換を行いました。

8/8~9

○高校生対象夏季公開講座

県内の高校生を対象に本学での授業体験を通して、大学で学ぶことの意義や今後の進路について考えてもらうため開催しています。1日目は全体講義、2日目は国際文化・社会福祉・看護栄養の各コースに分かれ学びました。



授業体験(社会福祉コース)

8/20~22

○小学生のためのなつやすみ宿題楽しく学ぼう会

今年度で5回目となったこの取組は、本学学生ボランティアによる宿題サポート隊が先生となり、地域の小学生の宿題をサポートするだけでなく、専門性を活かしたレクリエーション等、工夫を凝らした様々なプログラムを実施しました。



お勉強タイムの様子

8/21

○キャリアアップ研修「発達障害の理解と具体的な支援」開催

小・中・高等学校教諭、養護教諭、幼稚園教諭、保育士を対象に研修を行いました。本学教員1名の他、学外講師2名が講座を担当し、発達障害についての理解を深めるとともに、具体的な支援について学びました。



講義の1コマ



平成24年4月に別科助産専攻を開設しました

～生命の誕生に寄り添い、母と子の未来を育む専門職を育成します～

保健師助産師看護師法等の改正に伴い、助産師教育の修年年限が6ヶ月から1年に延長されたことを受け、助産師のみの養成課程を設置することとなりました。これまで、看護栄養学部看護学科において、選択制で行っていた助産師養成は、別科助産専攻において行うことになりました。

山口県内における、助産師養成課程(選択制を除く)は、本学のみとなることから、地域からの期待も高まっています。



山口県立総合医療センターでの実習風景

教育理念

地域の周産期医療及び母子保健の発展と向上に資する専門職としての知識と技能を有し、助産及び女性の生涯にわたる健康保持を支援できる実践能力を備えた自律した助産師の育成を目的とします。

教育目標

- 女性と乳幼児、その家族および地域を対象として、自律した専門職として地域の母子保健の発展・向上に貢献できる能力を育成します。
- 助産およびライフサイクル各期の女性が抱える健康課題に対して、専門職として援助できる基礎能力と実践力を育成します。
- チーム医療・看護において協働できる能力を育成します。

修業年限

1年

定員

10名(一般選抜6名・特別選抜4名)

取得可能な免許資格

助産師国家試験受験資格
／受胎調節実地指導員申請資格



別科助産専攻別科長

教授 ^{やました} ^{みつえ}
山下 満枝



助産師は、出産にかかわるだけでなく、女性の性と生殖の健康と自立のために、女性が持っている自然の能力を最大限に発揮できるように援助する“いのち”の専門家です。

母子を取り巻く環境は、核家族化、少子化、産科医不足による出産施設の集約化、妊産婦の身近な出産施設の確保困難、そして母親の育児不安の増大などますます厳しい状況となっています。このような社会状況の中、安心して妊娠出産ができる周

“いのち”の専門家としての助産師を目指して

産期医療を支え、主体性のある出産への支援、母乳育児支援、子育て支援、女性の健康支援ができる助産師が必要とされています。

別科助産専攻では地域の周産期医療現場の期待に応えられる基礎力と専門的実践力を備えた助産師の育成を目指しており、専修学校修生にも門戸を開いています。4月に1期生として入学してきた10名の学生たちは、学士課程卒業生、看護専門学校卒業生、また看護師、保健師としての臨床経験がある学生といるのですが、全員が“助産師になりたい”という強い意思と決意で学んでいます。

助産師教育は待たなしの1年完

結型の教育です。助産師を共に目指す仲間として、年齢や経験を超えた関わりの中で“共に学ぶ”ことを基本としています。また助産学実習ではプライマリーな場である助産院や産科病院と、総合周産期母子医療センターという第三次医療施設において、様々な場における助産師としての役割と責任を学ぶ実習を展開しています。

今、学生たちは、地域に貢献できる助産師として羽ばたくために、妊産婦の気持ちを大切に、安全安楽で満足度の高い分娩支援を目指した助産ケア、分娩介助、育児支援の実習に臨んでいます。

別科助産専攻のカリキュラム

「助産の理論領域」と「助産の実践領域」を2本の柱として編成しており、演習を多く組み込んでいます。

区分	授業科目		
助産の理論領域	基礎科目	助産学概論 周産期学Ⅰ 周産期学Ⅱ 生命倫理 母と健康	
	演習	助産文献講読 情報処理演習 助産研究演習	
	助産の実践領域	専門科目	助産診断・技術学Ⅰ(妊娠) 助産診断・技術学Ⅱ(分娩) 助産診断・技術学Ⅲ(産褥) 助産診断・技術学Ⅳ(新生児・乳幼児) 助産診断・技術学演習Ⅰ 助産診断・技術学演習Ⅱ 助産管理論 地域母子保健学
		演習	助産学実習Ⅰ(妊娠) 助産学実習Ⅱ(分娩・産褥) 助産学実習Ⅲ(継続事例) 助産学実習Ⅳ 地域母子保健実習

特色のある取組

宿泊オリエンテーション

山口紅花舎 4/5(木)～6(金)



別科助産専攻は、学生10名、教員3名と少人数です。また、学生の背景や年齢も様々で、環境に慣れる間もなく授業や演習が始まります。そこで、学生同士や教員との交流を目的に、山口市郊外の施設を利用し、宿泊オリエンテーションを行いました。レクリエーションや研修(生命倫理に関するビデオ学習、アロマセラピー体験など)を通して、助産師としての将来像をイメージしながら、これからどのように学んでいくかを考える機会にもなりました。



両親学級

「Let's OHURO My Baby」 in 地域交流スペースYucca 9/1(土)開催



学生の企画・運営による、プレママ・プレパパ(妊娠中のママとパパ)を対象とした「両親学級*」を開催しました。今回は、妊娠中に沐浴やオムツ交換などの育児技術を習得することで、よりスムーズに育児をスタート



できるようなプログラムを企画しました。4名の妊婦さんと4組のご夫婦にご参加いただきました。
※「両親学級」は妊娠期に行われる集団指導の1つです。

第一期生の声



^{うちばたけ} ^{りさ}
内畠 理沙

私は、中学時代から助産師を目指し、最短で看護師になれる5年一貫の高校に進学しました。卒業と同時に助産師を目指す道では縁に恵まれませんでした。助産師になる夢は諦めきれず、産婦人科に就職しました。そこでは、生命が誕生する感動の場面を目の当たりにする機会に恵まれ、さらに助産師になりたいと思う気持ちが強くなりました。仕事と進学に向けての勉強との両立は大変でしたが、入学後、「病院で経験できたことはよかった」と感じています。学生10名の背景は様々であるため、お互いに良い刺激を受け、同じ夢を目指す仲間同士、日々切磋琢磨しながら過ごしています。



^{まくら} ^{ちかこ}
真倉 千明

私は、山口県立大学看護栄養学部看護学科を卒業し、学内推薦により進学しました。大学の時と同じ環境で、新しい仲間達と、幼い頃からの夢であった「助産師」を目指して学べることに幸せを感じています。これまで、9例の分娩介助を中心とした実習を終え、現在、妊娠から分娩および産後1ヶ月の健診まで、継続して妊婦さんや御家族への支援をしたり、産科外来での妊婦健康診査などを中心に学んでいます。助産師の実習は24時間体制なので、生活が不規則になることもあり、決して楽ではありません。しかし、目標に向けて、皆で励まし合いながら、1年間という短いけれど貴重な時間を有意義なものにしていきたいと思っています。

【平成25年度別科助産専攻入試情報】 出願期間：平成24年11月19日(月)～11月28日(水)



Welcome to LAB

研究室紹介

国際文化学部 国際文化学科
中国言語学研究室
教授 馬 鳳如



本研究室は、国際文化学部の創立とともにつくり、18年あまりの歴史を持っています。私は中国語と中国関係の科目を担当しています。

大学の中国語教育は英語教育と違い、まったく基礎がなく、一から始めるため、どうすればうまくスタートが切れるのか、私は長い間ずっと模索しています。

大学の中国語教育では、主に中国語の基礎教養と実践的な中国語の運用力が身に付くようにしています。1・2年生の中国語の授業で、私がかつとも重視しているのは発音や会話で、特に発音練習を丁寧に指導しています。授業のほか、中国語ランチや、会話・朗読学習会及び中国語検定試験学習会なども行っています。

また、私は「五星奨・中国語教育推進会」の副会長や会長を長い間務めてきた関係で、九州・山口地方における大学生や高校生の中国語コンテストの運営に携わってきました。本学の学生を「全西日本大学生中国語コンテスト」(五星奨)に送り出し、「スピーチの部」では、最優秀賞を3回、第2位を2回獲得し、「暗唱の部」では、第2位を4回獲得しました。また、日本代表に選ばれて、「世界大学生中国語大会」に2回出場しました。

これからも、中国語学習の環境を充実させ、他大学の中国語学習者との交流を広げ、学外の優れた実践も参考にしながら、本学学生の中国語力を更に高めていきたいと考えています。

看護栄養学部 栄養学科
微生物学研究室
教授 溝手 朝子

現在の栄養学科所属となって6年目となります。振り返ると、生活環境学科、食生活科学科、食物栄養学科と、所属した学科の名称は変わってきましたが、微生物学を基礎とした担当分野は不変です。授業では、基礎病態学(微生物や生体防御)、食品衛生学(食中毒を中心に)などを担当しています。

微生物学領域はとても広く、分類、生態、形態と菌体成分、生理、病原因子と病態、遺伝子、抗菌性物質、免疫と生体防御、感染症、真菌・放線菌など、多岐にわたっています。人から見れば、微生物の機能を活用して、食品の加工や保存、医薬

品の開発製造といった、「神様」的存在である一方、新興・再興感染症や薬剤耐性菌といった、厄介な「悪魔」的存在でもあります。

私の研究室では、どちらかという「悪魔」を相手に、その本性を明かすために、生理(運動、菌体内情報伝達、細胞間情報伝達)や遺伝子(遺伝子の構造と発現)、抗菌性物質(薬剤耐性遺伝子)を標的として、大腸菌(遺伝子の発現調節機構)、ピロリ菌(運動や菌体内情報伝達を含む走化性)、腸球菌(特殊な薬剤耐性)を対象に、専門研究の学生たちと一緒に格闘しています。特に近年、山口県及びその近隣地域で検出された薬剤耐性腸球菌のなかに、耐性遺伝子を持っているにも係わ

らず、通常の抗生物質濃度では生育できない菌株が存在し、その菌株の耐性を示す薬剤濃度が変化することが分かってきました。耐性遺伝子があれば一次スクリーニングで検出できるという、常識を覆す「忍者遺伝子」の解明はとても興味深く、その解明によって院内感染の予防等に繋がるのではないかと考えています。小さいながらも基礎研究からの地域貢献のひとつになれば幸いです。



Watch Lecture 講義紹介

障害児教育支援法

社会福祉学部 社会福祉学科
教授 藤田 久美

「障害児教育支援法」は、知的障害のある幼児・児童・生徒の個々の発達や特別な支援ニーズに応じた教育支援の方法を理解することを目的とした講義です。特別支援学校の授業の実際や教育現場の様々な事例を挙げながら教育支援の方法について理解を深めていきます。講義を聴くだけでなく、グループワークや講義内容に関する質問を考える時間を取り入れることで、学生が主体的に学ぶことができるよう工夫しています。

受講生の感想を一部紹介します。「特別支援学校の具体的な教育内容



や教員の専門性について理解できました。私は将来、特別支援学校の教員になることが夢なのでこれから頑張りたいです」(2年生)

「障害のある子どもにかかわる教師には、子ども一人一人を理解するあたためなまざしが必要だと感じました。その意味で私は社会福祉を学んでよかったと思います。教育と福祉の相互連携が課題だと思うので今後学びたいと思います」(3年生) 感想を読むと、特別支援学校の教

師や障害児・者福祉に携わること等、一人ひとりが具体的な夢や目標を持ちながら受講している姿を感じ、身が引き締まるような思いになります。また、講義を聴くことを通して教育や福祉の課題を真剣に考えている姿に感心します。今後も、受講生の思いや声に耳を傾けながら、将来、障害児・者福祉や特別支援教育の現場で活躍できる人を育てる意識を持って、講義を行っていきたいと思います。



Consultation 相談の森

皆さんから寄せられたさまざまなご質問に、専門領域の本学の教職員がお答えします。

Q 5歳の子どものもつ母親です。朝、子どもがなかなか起きません。ようやく起きても支度に時間がかかり、幼稚園にも時々遅刻をしてしまいます。来年は小学校にあがるので、なんとかしたいのですが…。[30代女性]

A 朝の忙しい時間帯にお子様のお世話でご苦労なさっていらっしゃいますね。朝なかなか起きないということですが、昼間の様子、夜の様子、寝る時間、お食事など1日を通しての生活リズムはどうでしょうか。

子どもは生まれてから育つ環境の中で生活リズムを作っていきます。周りの家族の生活リズムに大きく影響を受けます。この生活リズムは、子どもの身体をつくっていくうえでもとても大きな意味を持っています。ほんの一例ですが、睡眠の質に影響するメラトニンというホルモンは、周りが暗くなると分泌が多くなり、眠くなる作用を発揮します。また明るくなると、分泌が少なくなります。骨の成長を促す成長ホルモンは夜間の熟睡した時に分泌されると言われています。しっかりと眠るためには眠るときはお部屋を暗くすること、またしっかりと目覚めるためには太陽の光を浴びることが大切になります。さらに、夜間に質の良い睡眠がとれないと、朝ごはんを食べなくなったり、しっかりと遊べなくなったり、集中力が低下したりと、子どもの健康にも悪い影響を及ぼすことにもなります。これは大人も同じですね。

子どもの生活リズムは、周りの環境に大きく左右されます。但し、御両親のお仕事や生活のこともありますので、理想的な生活リズムを遂行するというのは難しいかもしれません。しかし、これを機会に、家族で生活リズムについて、お子様だけでなく、家族みんなが健康に過ごせる方法を話し合ってみてはいかがでしょうか。



看護栄養学部 看護学科
講師 小迫 幸恵
(専門領域:小児看護学)



Student's Interview 学生紹介

いま、キミは輝いて

小さい頃からの夢の舞台で

国際文化学部
国際文化学科1年
おだ 小田 桃花さん
【スポーツクライミング部】



私がクライミングを始めたのは小学4年生のときです。小さい頃から高い所へ登るのが好きだった私は上へ上へと登っていくこのスポーツにすぐに夢中になりました。そしていつか世界一のクライマーになるという夢を持つようになりました。私が初めて外国へ行ったのは中学2年生のときで、オーストリアでの強化合宿でした。それ以来ユースの世界選手権や、16歳から参加できるワールドカップに出場し続けています。

今年は、オーストリアで行われたワールドカップで初めて優勝することができ、夢への第一歩を踏み出すことができました。これからは世界へ挑み続けていくことを考えると、他国の選手や現地の人たちとコミュニケーションをとることはとても大切だと思うし、多くの人たちと交流していくことで自分の登りも良いものになると思います。

県立大学では英語をはじめ、中国語や韓国語などの言語も学べます。自分が大学で学び身につけたことが、大会

で人と接するとき生きていくのをいつも感じる事ができるので、講義もすごくやる気が出るし、毎日とても楽しいです。これからはもしっかり勉強して、夢の実現に向けて頑張っていこうと思います。



クライミング風景(ワールドカップ)

“伝える”ことの可能性

国際文化学部
文化創造学科4年
のうとみ 納富 愛さん
【県大PR団体学生広報チーム】代表



「この大学は学生の“伝えたい”と“知りたい”気持ちで溢れているのに、それがうまく繋がっていない。架け橋が必要だ」という思いから、3年生のときに「県大PR団体学生広報チーム」を立ち上げました。学生が主体となって、山口県立大学の学生の自主的な活動を、外部へそして県大生へ向けて、映像、写

真、紙等の媒体を利用して情報発信しています。大学のPRと共に学生の自主的な活動の更なる発展の助力となることを目標としています。

学園祭の様態を撮影・編集しケーブルテレビで放映したり、サークル紹介PVの制作や学生からの依頼によるポスターやチラシのデザイン等、学生の“伝えたい”想いを同じ学生が各自の得意とする技術を活かして形にするお手伝いをしています。絵を描くことが出来る人はデザイン全般を担当し、映像制作が出来る人は映像を用いて情報発信をし、組織の全てのメンバーがクリエイターであり、自分たちの能力が同じ学生の役に立てることを嬉しく感じています。

この活動を通して、自分だけでなく周りの環境も変化していきます。私は、誰かのためになる“伝える”ことの可能性を、この活動を通じて更に追求したいと考えています。



ビデオカメラで撮影しているのが納富さん

サークル紹介

習を重ねています。

いろんな人の前で、楽しんで踊らせていただくことは、自分たちを表現する場として、とても大切にしています。私たちのダンスを見て、「よかったよ!」「上手だね。」と誉めてくださったり、笑顔になる方もいらっしやうて、伝わる楽しさも感じながら活動しています。

昨年は山口国体、今年は5月27日に行なわれた全国植樹祭のプロローグアトラクションでダンスパフォーマンスをしました。たくさんの人の前で、たく



さんの人々と踊ることができて、とても光栄で大きな達成感のあるものとなりました。

これからもたくさんの人々とふれあいながら、サークル活動を続けていきたいと思っています。

Circle Report

ダンス部colorful

看護栄養学部
看護学科3年
colorful代表
なす 那須 愛美さん



表現できる、伝わる楽しさ!

ダンス部colorfulは、週2回、基礎練習と学園祭や地域の催しに向けての練習を行っています。踊るジャンルは様々で、主にHIPHOPやLOCKING、GIRLSという種類のダンスをしています。また、12月の定期公演会に向けて、猛練

Exchange International 国際交流

本学では、海外の姉妹大学との間で学術交流団を相互派遣し、学生交流(短期の語学・文化研修の派遣や受入れ、交換留学等)、や教職員交流を進めています。6月21日(木)に「教員交流並びに日本語TAの帰国報告会」を開催しました。

●●教員交流報告●●

センター大学へ
(アメリカ合衆国ケンタッキー州)
国際化推進室長

シャルコフ・ロバート



今回初めて、本学のアメリカ出身教員とセンター大学の日本出身教員を相互派遣することになり、2012年1月7日から18日にかけて教員交流を行いました。その狙いは、異文化での長い生活体験や仕事経験を持っている教員の講義等を受けることによって、それぞれの大学の学生が、より深く「異文化適応能力」について理解し、グローバル化された社会における新たなライフスタイルや仕事の在り方について考えるきっかけを与えることでした。

「ジェンダーと西部劇」、「陶芸」、「日本文化」の3講義を担当し、それぞれ、「ジェンダーと時代劇」、「伊万里焼の誕生と展開」、「山口の歴史と文化」と題して、アメリカ人から見た日本文化・社会の現状について語りました。他にも、公開講座「日本文化と個人主義のギャップ」も担当しました。23年間の日本での研究や生活体験、趣味などを活かして講義をしたので、今までの経験を振り返る大変良い機会となりました。

また、アメリカ人学生とのやりとりは大変興味深く、彼らの積極性を再発見しました。そして、狙い通り、日本に興味を示し、将来本学で交換留学がしたいと言ってくれた学生が多かったことは、良い収穫だったと思います。

ラップランド大学へ
(フィンランドラップ州)

社会福祉学部 社会福祉学科
准教授 水藤 昌彦



2012年3月13日から21日にかけて、本学の提携校であるラップランド大学を訪れる機会を得ました。昨年6月にアルコール依存症とソーシャルワークをご専門とされる同大学のタルヤ・オルヤスニエミ教授が本学を訪れ、学生や地域の専門職の方向けに講義をされたことを受けての教員交流としての訪問でした。今回、私は学部生と大学院生を対象とした「高齢者の社会的排除とソーシャルワーク実践」という科目の一部として、「高齢と障害のある犯罪行為者の現状と課題」、「刑事司法制度と福祉専門職の機能」についての講義とグループディスカッションを行いました。事前に担当者からは「留学生は積極的だが、フィンランド人学生はおとなしくて日本の学生に似ている」と言われていましたが、実際には多くの学生から質問やコメントが出され、自分自身にとっても、国際比較の視点から刺激となる有意義な時間を過ごすことができました。

●●日本語TA報告●●

日本語TA(ティーチングアシスタント)とは、海外の姉妹大学からの依頼を受け、本学が推薦する学生を、現地の日本語教員のアシスタントとして派遣する制度です。

国際文化学部
国際文化学科4年
よねもと 米元 花歩さん



日本語クラスの学生たちと学内チャペルにて(ビショップス大学)

留学生へのチューター、教育実習などを通して、日本語を教える楽しさ・難しさ・奥深さを知り、その虜となってしまった私は、カナダのビショップス大学での日本語TAに応募しました。そして日本語教師として、一人の日本人として、もっと成長したいと思い、さらにアメリカのセンター大学でのTAにも続けて応募しました。



日本語クラス主催ハロウィンパーティー大成功(センター大学)

2年間の任期を終え、つくづく思うのは、「日本語っておもしろい!」ということです。生まれて20数年間ずっと日本で過ごしてきた私は、今までこんなに深く日本語について考えたことはありませんでした。ある日、学生から「“いなかっぺ”の“べ”って、どんな漢字ですか?」と聞かれたとき、大笑いして「そんな漢字ないよー、ひらがなかカタカナだよ!」と答えたのですが、気になって一応辞書で調べてみると、なんと「田舎兵衛」とあったのです。それからというもの、私は「自分が日本語を教えている」という考えを捨て、「自分も学生と一緒に日本語を学んでいる」という考えに改めました。いつも予想の斜め上から飛んでくる学生からの質問や回答に、笑ったり頭を悩ませたり驚かされたり、あつという間の2年間でした。



本物のモミの木を雪道の上をひきずりながら寮まで持って帰るところ(カナダ)



ケンタッキーの「あのお方」と(アメリカLouisville空港)

日本人であること、日本語が話せることを誇りに思い、これからも「日本」を世界に発信していきたいです。

★本学の職員研修制度「滞在研修」について紹介します★

滞在研修とは、本学での業務を離れて、国内外の学術交流協定校を始めとする大学、大学院、公的な研究機関等において研修に従事する制度です。3ヶ月以上1年以内の長期研修と3ヶ月未満の短期研修があり、平成21年1月の制度施行以来、平成23年度までに国外2件(いずれも短期)、国内1件(長期)、計3件の研修が実施されました。今年度は初めて国外の長期研修が2件実施されます。

国際文化学部 准教授 吉本 秀子:ジョージワシントン大学(アメリカ)
看護栄養学部 講師 太田 友子:ナバラ州立大学(スペイン)

本学への寄付 (H24年度上半期分) H24.9.15現在

(五十音順)

相本 艶子 様	片桐 郁代 様	豊嶋 和枝 様	洞ノ上節子 様
秋本美喜子 様	河村 太市 様	中井 嘉江 様	松岡 幸子 様
荒木 嘉代 様	木下万里子 様	中野千栄子 様	松岡 洋子 様
荒木 順子 様	木村 清子 様	永久 福子 様	松川 幸枝 様
阿波 昌子 様	小日向節子 様	西岡 弘子 様	松隈 昌子 様
安藤 康子 様	駒田るみ子 様	西岡真理子 様	松崎 紘子 様
池田加代子 様	酒井登美子 様	西川 早苗 様	松崎 貞子 様
池田 洋子 様	酒井美恵子 様	西田 文子 様	松崎美智子 様
伊藤 芳枝 様	佐々木澄子 様	西野 恵子 様	松田 和也 様
井上多智美 様	笹本 邦子 様	新田 恵子 様	松原 正美 様
今井 伶子 様	雑花 隆子 様	乃木 章子 様	水垣 敏子 様
今村 和子 様	清水 孝子 様	野村 良子 様	三戸 美江 様
岩野 雅子 様	白石 奈美 様	長谷川美葉 様	湊 和久 様
上山 敬枝 様	杉原 綿江 様	濱田 博子 様	南 寛子 様
内田みゆき 様	杉山美由紀 様	原田 吹江 様	南 宣子 様
梅木 幹司 様	澄田 悦子 様	平尾 初江 様	箕浦 敏子 様
梅地 一枝 様	関谷 晃子 様	福澤 道子 様	宮崎 弘子 様
江里 健輔 様	高津 優子 様	福田美知子 様	宮重 宏子 様
大門由希子 様	高橋 道子 様	福田百合子 様	村上 恵子 様
岡田 徳久 様	武居 瑞枝 様	福山 恵子 様	村田 榮利 様
岡田 陽子 様	種田かをり 様	福山 浩子 様	村田 陽子 様
岡 トシ子 様	田原 和恵 様	藤井 孝子 様	元永 伸枝 様
岡部 聡子 様	長阿彌美穂子 様	藤井 律子 様	矢儀 保子 様
岡村 郁子 様	土田 敏子 様	藤田 定子 様	安光 裕子 様
蔭山 陽子 様	露口 貞子 様	藤野ミフコ 様	山本 寛子 様
風岡そのこ 様	寺尾 敬子 様	藤本 雅子 様	吉村 京 様
梶川喜久代 様	寺嶋紀美代 様	船本 洋子 様	米澤美保子 様
片岡 和子 様	戸崎 宏正 様	古川 綾子 様	渡辺 隆之 様

●(株)太陽家具百貨店

●昭和電工(株)

●生活協同組合コープやまぐち(寄附講義)

●山口県立大学教育後援会

●山口県立大学創立七十周年記念事業推進委員会

●山口県立大学同窓会桜園会小野田支部

●山口県立大学同窓会桜園会萩支部

ほか86件

計205件 合計22,048,749円

(うち「さくらの森夢基金」計201件 合計16,600,749円)

ありがとうございました。



編集後記

平成24年9月秋分の日 渡邊 隆之(経営企画部長)

山口「けんじつ」大学、今回の特集です。言うまでもなく、山口「けんりつ」大学の語呂をもじったロゴ(言葉)で、ポスターに使用しました。

実は、この表現には賛否両論があります。賛成意見には、遊び心を求める冒険・チャレンジ的な精神が、反対意見には、遊び心を抑える堅実・論理的な精神が窺えます。

賛否両論、大いに結構。本来、決まり事を除く自由な発想には賛否があつて然るべき。ロゴは使命を果たし、本学が「けんじつ」だとあらためて感じさせてくれました。

悩むべきは、無関心にこそあり、雲を掴むための努力は続けていかなければなりません。知恵も工夫も必要です。天高い秋の夜長は、物思いに耽ることになりそうです。

さて、今回の特集、あなたにはどう映ったのでしょうか。忌憚のないご意見・ご感想をいただければ幸いです。



公立大学法人
山口県立大学
Yamaguchi Prefectural University

〒753-8502 山口県山口市桜島3丁目2番1号

Tel.083-928-0211 Fax.083-928-2251

<http://www.yamaguchi-pu.ac.jp/>

※Web動画配信も行っています。

「けんじつ」の語呂で、山口県立
大学大学院と【廻船の《まち・人・生
き生き》プロジェクト】実行委員会と
の共同事業で開催した屋外シンポジ
ウムの様子です。

表紙の題字は、江里理事長(学長)の
直筆です。

